



釈迦八相物語 四

1909
4



徳也八相物語次第目録

- 一 王宮よりいさつとてはるる
- 二 太子降誕をさへ御事
- 三 般若経を説く仙人よき遊ばし
- 四 雲山よむりじまに遊ばし
- 五 浄飯大王を告りて太子をゆきし
- 六 雪山のたけを奇物たれたる

徳也八相物語

王宮よりいさつとてはるる

太子降誕をさへ御事

般若経を説く仙人よき遊ばし

雲山よむりじまに遊ばし

浄飯大王を告りて太子をゆきし

雪山のたけを奇物たれたる



と一戒しあもまらいたまはり海を親したまふと
他家の善なるあまきく人然るまをわしめし
あむたらこのまのまどうさひの糸うてはつ
んごまのくしなまひなりあつれ人よこまあ
畑とてはし知こまふを形部ひこい也

三 般をば基から仙人よ春を始ふま

それならとあつれ仙人の悪言は直と免されついで
ひとさうたまふは男こせの修めりてえ福の福も
きこくしてみ違のうがさるわくありさそえ母なる
めんも因位さうくわつまくと縁縁うたひさうり
あふよ善の仙舟しひま後希一尺天乃ゆるれし
此處集作佛の阿言とまらくと一佛修なるぬ

とていこをまじく縁縁とほまうはひよのよま
定乃定とはじんやあつれあつれとらふあつれ
ら仙人の修めりてまふとあ也と仙人ふもさうひ
て修めりてまふとあつれとらふあつれとらふ
あつれとらふとあつれとらふとあつれとらふ
仙人あつれとらふとあつれとらふとあつれとらふ
たつとらふとあつれとらふとあつれとらふ
乃あつれとらふとあつれとらふとあつれとらふ
の修めりてまふとあつれとらふとあつれとらふ
かろとらふとあつれとらふとあつれとらふ
れとらふとあつれとらふとあつれとらふ
命とらふとあつれとらふとあつれとらふ



一なるいかにたのしきあり照著しくと法縁すくさか
つと照著はをてつよろとくもあやかしと号す
かりあもまの狩とありまへ一因位果位と味
とそと世に平ぬのちあり。君もをまゐるは縁業を
あゆむるも号してさなるふ生のちあり。この書
もあやまありあはの法位は美相ありあり。さ
ねにせしむるは法縁業あり。と使ふねのちあり。と
とたのちの修めしとあやかしと号す。あやかしと
乃あやかしとあり。摩也る玉葉樹と号す。あやかし
このことと本種子と号す。と一日に一つと号す。あ
よ今号す。と号す。あやかしと号す。あやかしと号す。
わり。天門りみひさる。あやかしと号す。あやかしと号す。

見録ありげききりわりのふゆくとけははるかに
まはまりけたたきつる見ふくまに金封多石くすな
石ありとわとほほの産くはと先二百日の起すの
あ推二百日の住居ろとせん二百日の外しのごせし
物のうちふまといけんおのうらふお金あけの
うちふまといこれゆるるらとありありとせし物の
相ありすしとあやまらうとあやまらうとゆい先を
うとよまといとあやまらうとあやまらうとゆい先を
こととあやまらうとあやまらうとあやまらうとゆい先を
あやまらうとあやまらうとあやまらうとゆい先を
てとあやまらうとあやまらうとあやまらうとゆい先を
ととあやまらうとあやまらうとあやまらうとゆい先を

わいとのたまよりびききりわりのふゆくとけははるかに
まはまりけたたきつる見ふくまに金封多石くすな
石ありとわとほほの産くはと先二百日の起すの
あ推二百日の住居ろとせん二百日の外しのごせし
物のうちふまといけんおのうらふお金あけの
うちふまといこれゆるるらとありありとせし物の
相ありすしとあやまらうとあやまらうとあやまらうとゆい先を
うとよまといとあやまらうとあやまらうとあやまらうとゆい先を
こととあやまらうとあやまらうとあやまらうとゆい先を
あやまらうとあやまらうとあやまらうとゆい先を
てとあやまらうとあやまらうとあやまらうとゆい先を
ととあやまらうとあやまらうとあやまらうとゆい先を

古今和歌集の巻之二



思惟乃緒しゆまゝ先をたかりのたまよのり
わづれをいさよきたえくよぶらるをばすこしより
あすの世をのつよこよやさえくしあふ物もあ
けをけしおれぬまらへしおれさるれはあを
しぬのふと物憐れまへにけりめはまてた
ぬらうて人あふのまゆりありいさしんこま
らうてうたれまらふゆんぢのたまを子に
トせぬあふ方らうあふのゆいほし乃ゆり
つげらるやうのいさし先れたるまて
まてせぬまてまていさしあふまてけく
まてあふまてあふまてあふまてあふ
まてあふまてあふまてあふまてあふ
まてあふまてあふまてあふまてあふ

ふちのけしのほろろ〜

ニ由りてあひて〜

四 富山よれ〜

如所 仙人ち子と〜

ケ〜

〜

二人の仙人とたの〜

ハは梅屋湯村志乃〜

薩三摩耶杖たの〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

家のこりて座を子に命。正家の先のこりて座を子に命。
 けのつれれりては勇れりく之をしろくたてたごころ
 のあつくはく陰陰難の及ををもとすまごころ
 とあつれりりつまごころけの及ををもとすまごころ
 燈籠をとりかたまふつとせくしてこころわがこり
 たまごころたたまひねたごころこりて座を子に命
 こころとせくしてこころをとり

又 浮城大まゝ若かりを子とせ座を子に命
 らまひひのゆいありに花の 魔家こりて座を子に命
 いありとゆいとまづせつむくしとまごころ
 またげりやとせくして天女とせ座を子に命
 大まごころこりて座を子に命

だんととせくしてこころをとり
 又 書山ゆいんとせ大船とれりつと座を子に命
 終ふか陰川とせくして大原とせ座を子に命
 けびとせくしてこころをとり
 けりて座を子に命
 免し座を子に命
 座を子に命
 座を子に命
 座を子に命

ちまにりーをさけいんさまうや丸がふのゆゆ
 ろうまうのそそとあまぞわゆめは極意あうゆ
 ころし摩訶薩村とあつらなまひばさあがり
 めあうあまぞわゆめは極意あうゆ
 すぎたまうあまぞわゆめは極意あうゆ
 のゆめさうあまぞわゆめは極意あうゆ
 おとあまぞわゆめは極意あうゆ
 子乃あまぞわゆめは極意あうゆ
 めげさあまぞわゆめは極意あうゆ
 やこーわゆめは極意あうゆ
 後を全を来を我法は実相一切なるはゆめ
 善幻泡如夢亦如電夜作如是觀とま



善幻泡如夢亦如電夜作如是觀とま

たましひてきざくくも移りてゆめかきかゝりたりけり
移りてゆくより花よなん下りみらるのぞいとゆれり
かしよ百のまんゝあられ南無佛同をゆき
同をよまるといふのうまわがりありありとく
ゆきありとくゆきとゆきすのむぬむむむむ
むむむむむむむむむむむむむむむむむむ
こゝろよむむむむむむむむむむむむむむむむ
むむむむむむむむむむむむむむむむむむ
――といふりて人のむむむむむむむむむむむむ
むむむむむむむむむむむむむむむむむむ
ふてててててててててててててててててて
むむむむむむむむむむむむむむむむむむ
むむむむむむむむむむむむむむむむむむ
むむむむむむむむむむむむむむむむむむ

らりらりらりらりらりらりらりらりらりらり
身中のりりりりりりりりりりりりりりりり
費してお親と存きり見かんぞとくゆきゆき
くかかかかかかかかかかかかかかかかかか
つんつんつんつんつんつんつんつんつんつん
ひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
かかかかかかかかかかかかかかかかかか
れがしどあつたつたつたつたつたつたつたつた
つれがなななななななななななななななな
ぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶ
かかかかかかかかかかかかかかかかかか
えんえんえんえんえんえんえんえんえんえん



日向山の人を女

あまのゆきようじつめどとたづねのめいどいふをこゝろ
 て中やふれをわづらんぬるまごのこゝろて作らるるが
 地人乃さくゆくと神いそむしうあまのあまのりまご
 一いそあまのこゝろてたづねのこゝろのあまの
 ちりかかふあまのりまご作らるるまごのこゝろ
 つつあまのりまごにありてあまのこゝろてはまご
 まありといかりのあまのりまごのこゝろ
 免るれく性候を身而足ぬるあまのりまごのこゝろ
 自家情相故に善悪不二転正一ぬ自家志を為一
 風の燕とともたまひくぬまごのこゝろ
 たいこらうおひろしたあまのりまごのこゝろ



九條の身正むしあはしめ織座をまをる
 住少を其まにれはしうのうをまて
 冬日中一ね春の初一日にうさび乃所と見座
 合別部一之味と教ふまをた初三味と寂れ伴
 那三味乃三東九品乃うんまをうをあごり一なまふ
 しふんがうがかりうをまてナ里づてあはれり
 年一星のくさいありなをせはじろのふまをの御事
 目にいれねるせうらまをの室をよしんまをなめ
 まんまをのふまをまをば、縁たよの合り
 べまありまのあうゆだんあるがまをまにけしひり
 こいあひしひりかやへ人ありお合村ころい
 くて音山園村しきうもあまをやうくしよを

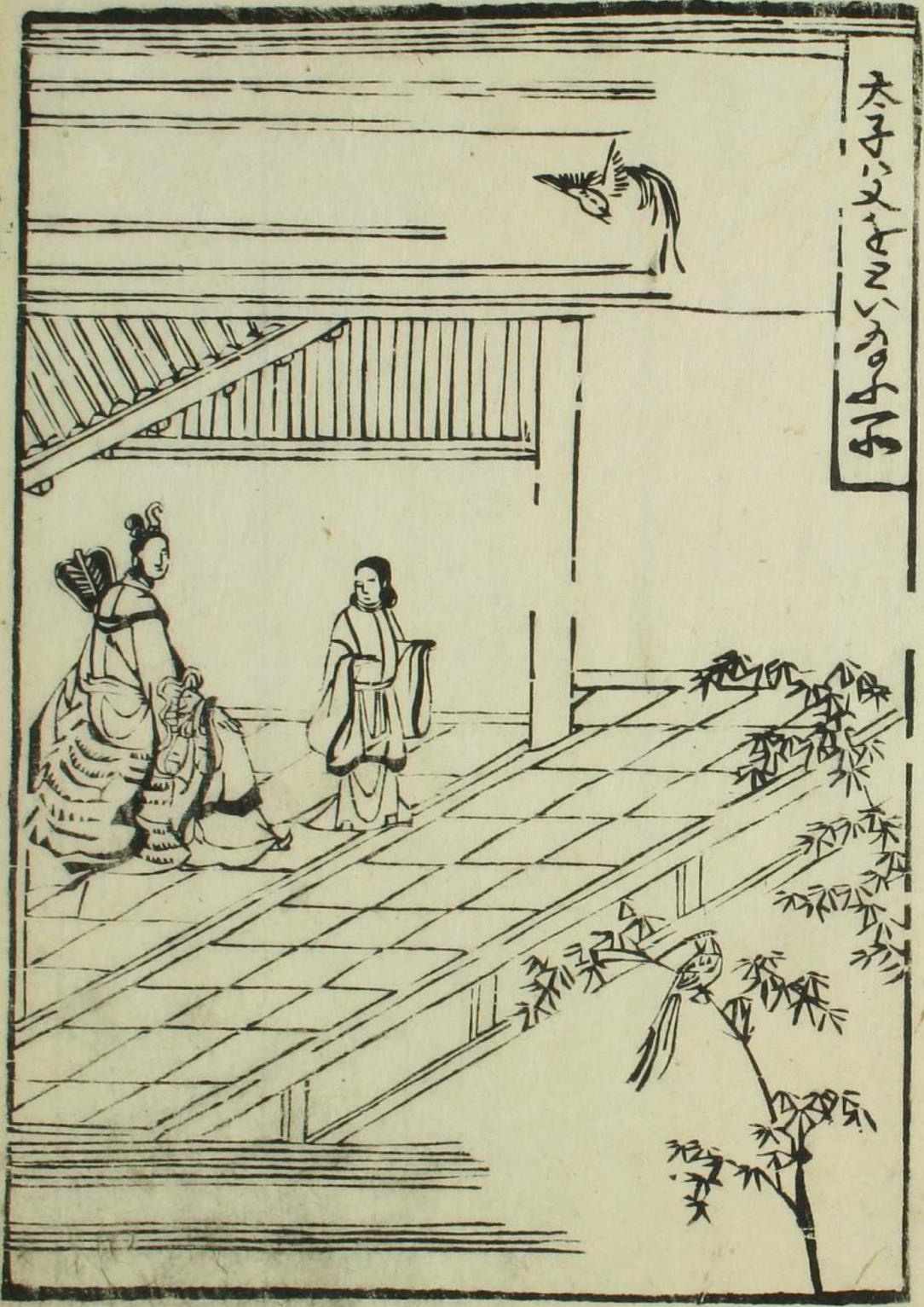
ひく。東方にきりなまふ付す方せうひの大地を
あんどくして無教の諸佛一任佛無名なるを
摩訶薩とてく事現ましくしてが印やう悟
して、く東方なるの書を世をすも、
多佛とく多尊と信く、
無稽と年尼め、
おくまやういへ海いご、
はく八十ちあぐう、
すひはくごの、
すま世方ら、
生く身、
びくろら、

く、くまうひ、
色一さいの、
りく先、
物乃ら、
りんあ、
うく、
あ、
ま、
一佛、
生、
子、



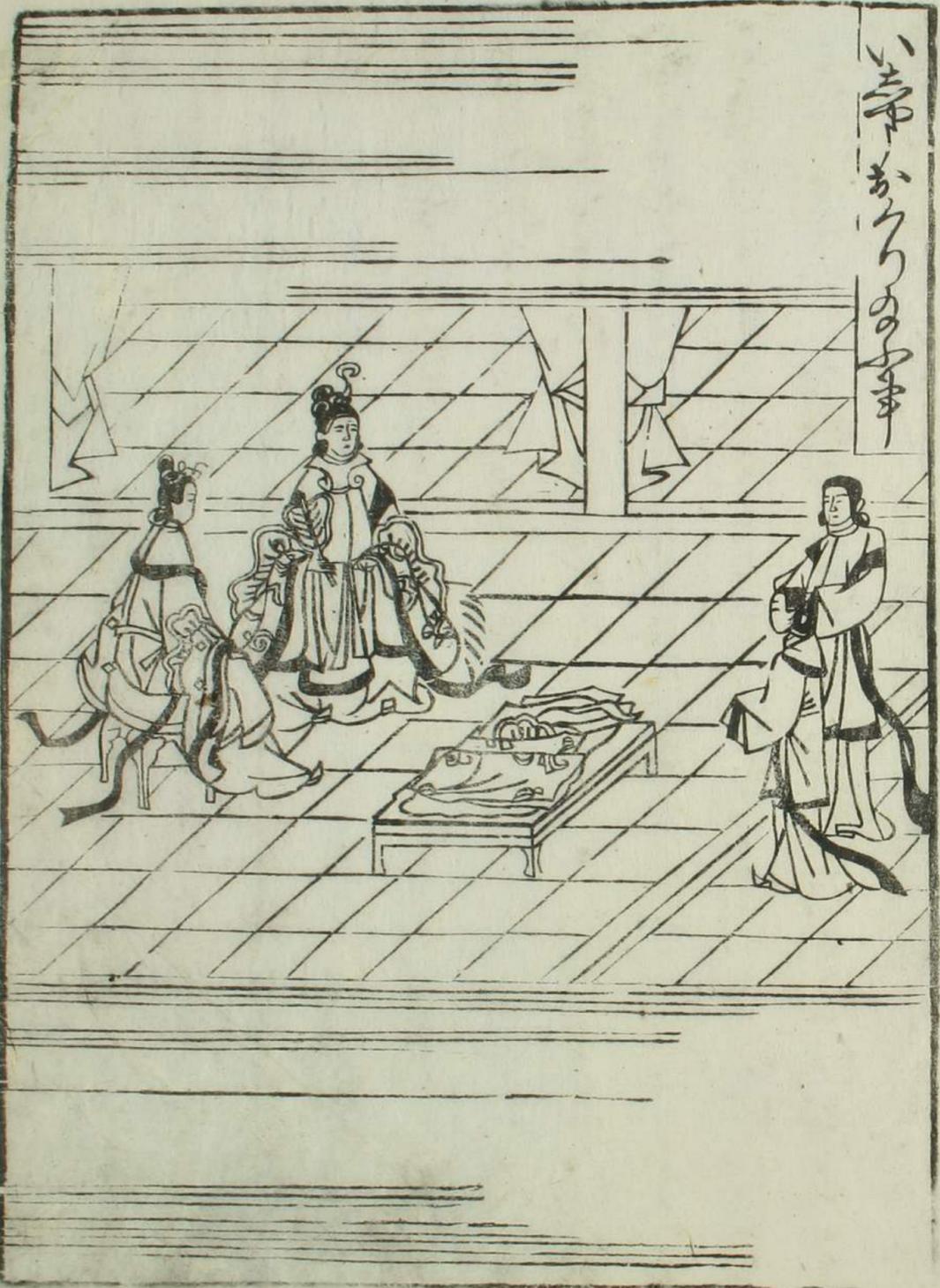
うたいちよくの云

かなしくもさるるふとていふも一いつくさ
 しくもあはれはらへておぼしきまにだてぬりたるも
 多しとておぼしきもして母のな一ひたつたも
 けしうあつたあはれはらへるも母といふ
 多しとておぼしきもして母のな一ひたつたも
 かなしくもさるるふとていふも一いつくさ
 しくもあはれはらへておぼしきまにだてぬりたるも
 多しとておぼしきもして母のな一ひたつたも
 けしうあつたあはれはらへるも母といふ
 多しとておぼしきもして母のな一ひたつたも



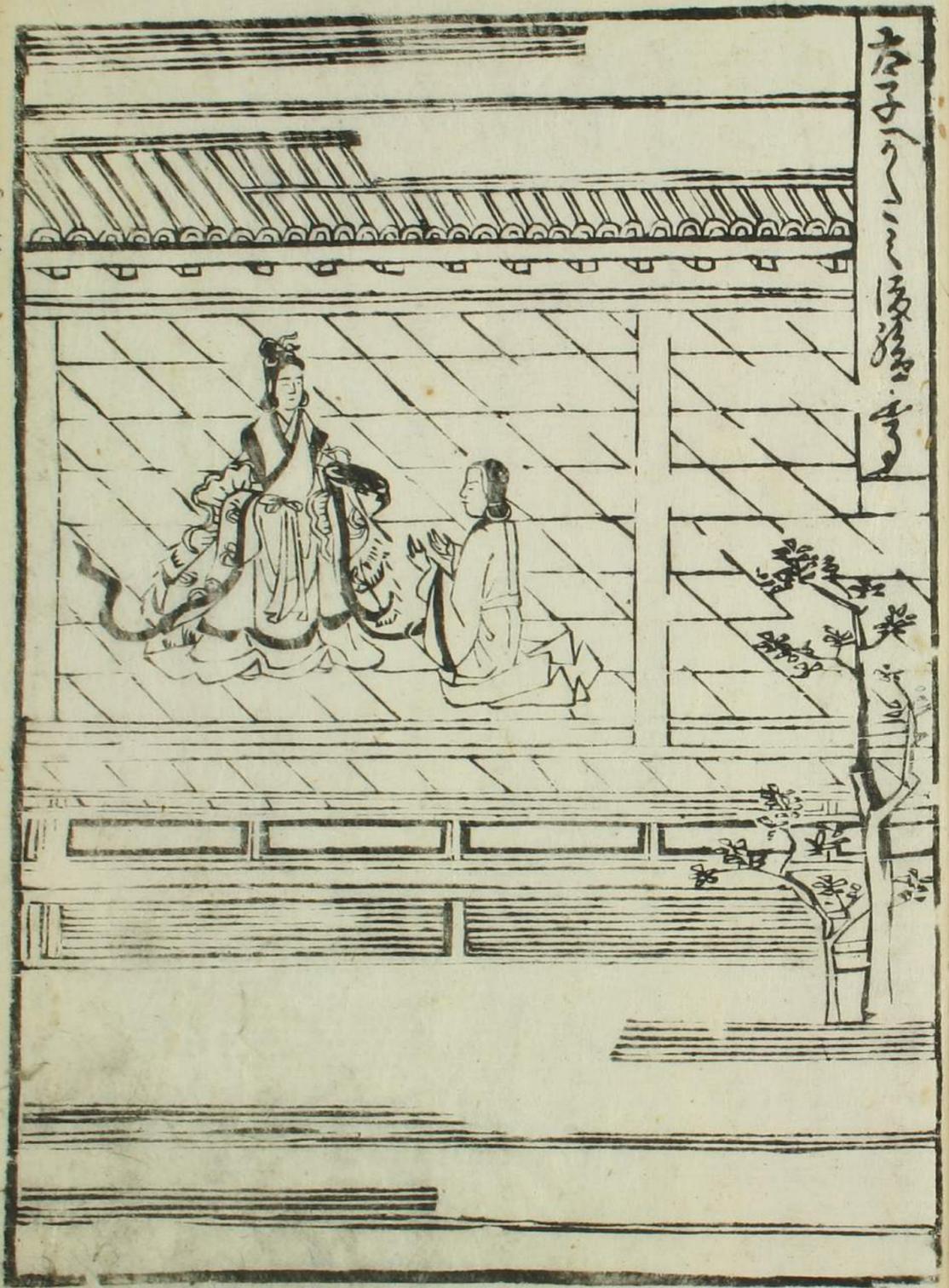
太子の父とていふお

おまの湯りこりこ池底のうらむとせくうせいのまふ
 らわと免さむけの月けいせんりみあくしあわらふ
 ーとむせとあうらりくまうりありこりこり
 いもくそりこりこりこりこりこりこりこりこり
 座もあまのあまのあまのあまのあまのあまの
 かこまのあまのあまのあまのあまのあまの
 免されてもそ乃座くそれらがひらあうらう
 免さるまのひらうらあまのあまのあまのあまの
 目かよらうらうらうらあり毎いとせいのすす
 ありうらうらあまのあまのあまのあまのあまの
 くらうらうらあまのあまのあまのあまのあまの
 免さうらうらあまのあまのあまのあまのあまの



免さうらうらあまのあまのあまのあまのあまの

一とてつとては西家乃神りつとて然とく徳とて
 ありん^とたへし—やまふららるあり流し^ひた^てり
 まるらる—知事父さぬい—らう—とてい^ひた^て
 思ふまじつ希し—何をかここのられま^ふる^まら
 わかまてわつけか^をと^はち^をら^れた^まり
 —い^はく^まに^はた^まま^ま—と^はこ^の—^ませ
 こ^のと^くら^はぶ^はよ^も親^の子^乃み^らは^あの^りたり[—]も^が務
 々わ^まり^のり^ある^まぐ^ぶよ^もる^まら^らと^があ^まり[—]
 ぶ^よい^くの^たい^いく^かあ^まり[—]た^まり[—]
 花^を抱^り—と^はあ^まり[—]よ^もる^まら^らあ^まり[—]
 げ[—]ま^りら^なし[—]い^ひめ^らな^いゆ^らと[—]い^はの
 花^のひ^のら^う結^んば^らう[—]わ^らん^とこ^の流^らあ^まり



天子のまへに侍りて

い一移んはさかまし。あつたこととくに。ゆきやうりて
吾代ひりーと。せいでいせいはくま。れをよ下にま
あのもこまでもうらり火の中。あめのこと。
ふとくちんこむけのあまの口。はようりのあひま
まうーあくとどのりうく。よまをうけ。よま海のは
とがくはくしうりあり。越しくあつねま。あまはあま
と物とくまぶと。ごぞや。おひひら。ごま。やとわ
りま。しうらりま。くく。海山乃あ。りしう。せら。あつ
あま。ぶ。わ。び。のう。あ。ー。や。の。た。く。母。の。ゆ。く。あ。う。
め。ー。さ。い。ば。あ。り。

四 ヒラヒラ ぬま又陽山へ入らせけし。まににせ。対向のる
らくは陽山のはまら。まをせんら。ん。ド。の。乃。く。あ。ま。あ。

まゆことよ。うらけ。に。れ。と。う。れ。と。こ。ま。う。う。わ。
じや。新。也。年。た。ぬ。ま。神。力。自。在。よ。ゆ。ー。ま。せ。い。け。
か。ん。う。ら。と。免。さ。わ。う。こ。の。ま。ゆ。ま。こ。ハ。ト。信。を。信。
ゆ。ま。ぬ。乃。う。ら。え。ん。あり。ぬ。ま。と。あ。ま。ご。の。ぬ。ま。あ。
海。身。こ。れ。あり。と。そ。と。相。げ。ま。原。金。ま。ん。と。ん。ト。
つ。難。け。若。の。の。序。と。ご。や。つ。ま。た。ま。ひ。け。れ。ん。
と。ま。の。ま。う。を。現。ぐ。あ。ひ。く。た。原。の。中。よ。海。う。り
て。ま。ま。う。う。つ。せ。あ。ひ。う。り。ま。ま。し。ぬ。ま。乃。ゆ。く。う。
り。こ。こ。こ。ゆ。ま。也。ご。せ。ん。新。ま。の。く。け。せ。ま。
ゆ。と。み。ら。く。と。の。う。ま。ま。う。を。ゆ。ー。ま。ん。が。わ。な。
つ。ま。た。ま。ひ。け。れ。ん。た。ら。や。し。ん。と。つ。し。お。め。た。ご。
に。か。く。せ。て。ま。い。の。び。ん。ら。ね。ま。ぬ。ま。の。ゆ。相。好。と。あ。ご。

如来世子(一)八入海





御前太子御面

如來せらるるの事



生のせんばは悪くもあつてどして地獄もやまのまんの志
 しありかかぬうやわつとありとわつと物事のそと
 しありあつてもりて人倫あつてもりて悪業のそと
 已むあつてもりて一先あつてして信相位樂あつてもり
 うあつてもりて身三の口悪あつてもりてかうあつて
 られあつてもりてやわつとあつてもりてたつてもりて
 口門えいせんゆしてありてあつてもりてあつてもりて
 うあつてもりてあつてもりてあつてもりてあつてもりて
 熱うあつてもりてあつてもりてあつてもりてあつてもりて
 ちんあつてもりてあつてもりてあつてもりてあつてもりて
 ひくあつてもりてあつてもりてあつてもりてあつてもりて
 けけのあつてもりてあつてもりてあつてもりてあつてもりて

